

海を漂う廃プラスチック

プラスチックゴミ

橋本 大歩

海洋プラスチックゴミの種類

海洋プラスチックゴミには、そのままの形で残っているものや5mm以下のマイクロプラスチックという形で存在しています。マイクロプラスチックは生成の過程で2種類に分けることができます。

1次マイクロチップ

1次マイクロチップとは、マイクロビーズなどマイクロサイズで製造されたプラスチックのこと。

2次マイクロチップ

2次マイクロチップとは、大きなサイズで製造されたプラスチックが、紫外線や衝突などの影響を受け破砕され細分化されて、マイクロサイズになったもの。

回収はできないのか？

海に流れ出たプラスチックゴミの大部分は海に沈んでしまったと言われていて、小さく微細化したマイクロプラスチックの回収は極めて困難です。

しかし、マイクロ化する前の大きなサイズのうちに回収することが可能です。また、回収よりも先に、陸から流れ込まないようにしなければなりません。

野生生物への影響

プラスチックゴミは野生生物に直接的、または間接的に影響を及ぼしています。

こういったタイプのプラスチックゴミが最も悪影響を与えているかという点、漁具、プラスチック袋、プラスチック食器が主な要因となっています。しかし、ここ近年、大きいサイズのプラスチックより、マイクロプラスチックの方が問題点としてあげられている。これまでのところ、海水中から検出されるマイクロプラスチックの濃度は、海洋生物を殺すほどではありません。しかし、慢性的にマイクロプラスチックに曝され続けると、成長に影響を及ぼすことが分かっています。

プラスチックゴミの流出量の多い国は？

国名	2010年 プラスチックゴミの発生量(トン/年)
1位 中国	3530000
2位 インドネシア	1290000
3位 フィリピン	750000
4位 ベトナム	730000
5位 スリランカ	640000
┆	┆
20位 アメリカ	110000
┆	┆
30位 日本	60000

この表から分かるように、5位までをアジアの国々が占めていることから、海洋プラスチックゴミの問題の要因がアジアにあると考えられている。

結論

海洋プラスチックゴミを減らすには、海に流れ出たゴミを回収するのではなく、海に流れ出る前に止めなければなりません。